

平成22年6月14日現在

研究種目：基礎研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18530407

研究課題名（和文） ことわざによる社会・文化の探究

研究課題名（英文） A Research of "Community Common Sense and Way of Life" by Proverbs

研究代表者

穴田 義孝 (ANADA YOSHIYUKI)

明治大学・政治経済学部・教授

研究者番号：00101387

研究成果の概要（和文）：

- (1) 行政単位よりも小さな各地域社会において了解、共有、伝承されてきた「郷土のことわざ」という、いわゆる『ことわざ辞典』類には載っていないことわざが存在することに注目した。これに関する文献資料を各都道府県立図書館にて蒐集し、それをコピーして持ち帰り、拙者の作成した一定の形式による文字データ化という情報の整理を実施してきた。約250の文献から数万句もの研究の土台としてのデータを得ることができた。
- (2) 新たに「ことわざ創り調査法」という調査法を考案し、この調査票を用いて学生や文化講座などの聴講者を対象に調査を実施し、多くのデータを集め、整理、分析している。この調査法は、特定社会における「意見・態度調査法」といえる。
- (3) ①伝統的（既成の）ことわざ、拙者の考案による②「ことわざ創り調査」による「創作ことわざ」などをデータとして、特定社会・文化の諸相を分析・考察し、下記の著作等を上梓した。これらの著作等をご覧いただければ幸甚である。

研究成果の概要（英文）：

- (1) I have collected the literatures of "Folk Proverbs record" from Tokyo, Hokkaido and all the other prefectures library. And I arrange "Folk Proverbs record" to regular letter data. Until now I collected 250 literatures, tens of thousands proverbs.
- (2) I produced "the way of the questionnaires, produce proverbs in person." It is the "questionnaires of opinion-attitude." And I surveyed the opinion-attitude student and elderly people by cultural course.
- (3) I bring out published matters about "local common sense" by traditional proverbs and production proverbs. I hope to read my books and papers.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	400,000	120,000	520,000
2007年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	400,000	120,000	520,000
年度			
総計	3,100,000	930,000	4030,000

研究分野：社会心理学

科研費の分科・細目：※

キーワード：①郷土のことわざ、②文字データ化、③習俗規範、④社会意識、⑤対人関係、
⑥コモン・センス (=常識)、⑦インタビュー調査法

1. 研究開始当初の背景

『ことわざ辞典』類は、『国語辞典』よりも数が多いし、ことわざに関連する著作も多数ある。これほどことわざが日常的にも学問的にも関心もたれているにもかかわらず、「ことわざ学」という発想は普及していない。そこで拙者らは、20 数年前より「ことわざ研究会」を継続してきて、5 年前には「ことわざ学会」を立ち上げた。さらに昨年秋にはより専門性を高め、「ことわざ学」構築のために「日本ことわざ文化学会」を設立した。

ところで、ことわざは「言の業」という側面と「事の業」という側面が表裏としてある。ことわざ研究には、前者の視点でのことわざそのものを探究する”狭義の人文科学分野の研究“が大半を占める。

一方、後者の視点からみると、ことわざは「人のこころ・行動、相互作用、社会現象、文化事象、自然現象などをはじめとして動植物や、地理、気候、宇宙、宗教や道徳観など」すべての事柄を叙述しているといえる。このようにことわざをみると、ことわざ研究には“ことわざをデータとしての社会科学分野や自然科学分野の研究の可能性がある”と考えられる。しかし、こうした分野のことわざ研究は、研究者の中でも、日常の常識の中にも発想すら持たれていないし、著作・論文なども少ないといえる。

こうした背景の下、拙者はさきがけの社会科学分野の研究として、「ことわざ社会学」、「ことわざ社会心理学」を提唱している。具体的には、主に『ことわざ辞典』類にある①伝統的（既成の）ことわざをデータとしての研究では、現代日本社会における、例えば習俗規範、社会意識や常識などに関する特定テーマについて、類句や反句などを複数集合させ、それらに一貫する、共通する行動原理を分析・考察している。

また、特定社会集団構成員を対象（被調査者）として、それらの意見・態度を抽出するべく②「ことわざ創り調査法」を用いて、これにより得られる「創作ことわざ」をデータとして、被調査者の意見・態度、そして社会・文化的背景との相関などについて分析・考察している。

さらに、「ことわざ学」の更なる発展のために、『ことわざ辞典』類には載っていない「郷土のことわざ」が存在し、文字通りその郷土、地方にそれらが埋もれていることに注目し

た。なお、「郷土のことわざ」は、当初「地方のことわざ」といつていたが、図書館には<郷土資料室>があり、対象のことわざは主にこの資料室にあることから、名称を「郷土のことわざ」とした。

この文献が了解、共有、伝承されている単位は、市町村といった行政単位よりも小さな、例えば各地の「ブラク（ムラ）」、「字」、沖繩では「シマ」、さらに特定河川の流域といった単位である。

これを①とは区別して③とし、『ことわざ辞典』類には載っていない新たなデータの発掘、さらにそれを一定の形式の文字データ化とする計画を立案し、本研究に至った。

2. 研究の目的

- (1) 大きくは、狭義の人文科学的事ことわざ研究、社会科学的事ことわざ研究、自然科学的事ことわざ研究、学際的事ことわざ研究などを統合して、総合科学としての「ことわざ学」の構築を目指したい。
- (2) その中でも、ことわざの魅力、威力を証明できる社会科学的事ことわざ研究としての「ことわざ社会学」、「ことわざ社会心理学」をさきがけ的に提唱し、探究する。
- (3) 本研究では、いわゆる『ことわざ辞典』類には載っていない、都道府県、市町村などの行政単位よりも小さな枠組みの生活単位内で了解され、共有され、伝承されてきた「郷土のことわざ」の文献データの発掘を行いたい。これはことわざ研究における新たなデータとしてのことわざの発掘という意義があると考えられる。
- (4) 前述の(3)の補完的調査を実施する。また、例えば図書館司書、郷土史家、民俗学者、小中高の教員、各地の区長、老人会長、婦人会長などにインタビューし、失われつつある「郷土のことわざ」の文字化による記録、学習・活用の普及運動を呼びかける。
- (5) 前述の(1)や(2)とも関連するが、①、②、そして③のデータを駆使して、「ことわざ社会学」、「ことわざ社会心理学」の視点から、現代日本社会・文化の諸相を探究する。そして、著作、論文等による成果の公表を目指す。

3. 研究の方法

本研究では、研究の目的にある(1)、(2)については、新学会の設立、さらに①伝統的(既成の)ことわざ、②「ことわざ創り調査法」を用いての「創作ことわざ」、③「郷土のことわざ」といったデータを用いて著作、論文などを発表してきた。

①伝統的(既成の)ことわざについての具体的研究方法の一例を示してみる。ことわざには矛盾両極の意味と考えられる句が多い。そこで、特定のテーマ(キーワード)、例えば「嘘」に関して、類句・反句を辞典から複数集合させる。それらを統合的に分析して、「嘘つきは泥棒の始まり」というように嘘は原則として禁止、しかしまた「嘘は日本の宝」といった極端な反句がある。結局、この矛盾両極を寛容に許容し、「嘘も方便」というように状況や時と場合により柔軟に、「イイカゲン」ではなく、好い加減に使いこなすのが現代日本社会における習俗規範、社会意識、常識と考えられると分析する。

②については、大学生、高校生、看護学校生、専門学校生などを被調査者としたり、講演などでの主に中高年の受講者を被調査者として、「特定テーマ」について「ことわざ創り調査法」を実施している。一句だけ創作するのでは主観的であったり、駄洒落・もじりなどの言語的技法の駆使のみで、真の意見・態度が抽出できないといったバイアスが出やすい。そこで、「いろはことわざ創り調査法」を考案して実行している。これは、「あ、ゑ、ん、を」を抜かした「い、ろ、は…」のそれぞれを頭文字として、一人に四十四句を創作してもらう方法である。30分ほどで完成できるものである。10数年にわたり、多くのデータを蓄積している。また、これに関する著書、論文も多数上梓している。

③「郷土のことわざ」については、本研究目的の(3)と(4)でもある。その具体的手順は次の通りである。例えば、各図書館には未整理で書庫にあるため遠隔地からは検索できない、あるいは文献のごく一部にことわざが載せられている場合などは、ネット検索では限界がある。そこで、全国の都道府県立図書館を直接訪ね、「郷土のことわざ」に関する文献データをみずから探して、文献データをその場でコピーし、それを持ち帰り、業者に依頼して一定形式に統一した文字データ化をする。それは、データの数が約250の文献、ことわざの数は数万句にも及ぶため、個人では不可能な量であるためである。

上述の(4)補完調査とは、(3)の調査で、例えば文献データが豊富な地区には、さらなるデータ蒐集をするために、現地インタビュー調査を実施する。逆にその地にほとんど文献データがない場合は、その理由を探したり、新たな伝承者の存在を調査したりする。

「郷土のことわざ」の文字化による記録、学習・活用の普及運動は、図書館や、公民館などでの講演での呼びかけをしている。学会を通して全国規模としたいと考えている。

(5) 前述の①、②、そして③のデータを駆使して、「ことわざ社会学」、「ことわざ社会心理学」の視点から、現代日本社会・文化の諸相を探究し、著作や論文などによる成果の公表を目指している。

4. 研究成果

「ことわざ学」は、狭義の人文科学分野、社会科学分野、自然科学分野、学際的科学分野のいずれの学問分野にも研究が及んでおり、「学際的科学分野」といえる。しかし、大半が狭義の人文科学分野の研究であると考えられてきた。

こうしたことわざ研究の現状において、拙者はさきがけとして「ことわざ社会学」、「ことわざ社会心理学」を提唱し、著作を通しての実証的ことわざ研究を発展させてきた。その成果として、ことわざ研究が特定学問分野に留まることなく、特に社会科学的ことわざ研究の可能性が大いに期待できるということが、ことわざ研究者の中に認識され、広まってきたといえる。

全国の都道府県立図書館を直接訪ねて、書庫などに埋もれている「郷土のことわざ」に関する文献資料や、一つの文献の一部に「郷土のことわざ」が掲載されており、パソコンの検索では出てこない資料などを蒐集調査してきた。約250の文献、「郷土のことわざ」は数とすれば数万句を、統一した形式で文字データ化してきた。

存在はしていたが、一部の人にしか知られていなかった「郷土のことわざ」は、ことわざ研究の新たなデータであり、様々な視点からの活用が期待される。

また、こうした文献として文字化されて残されているデータは、むしろ少ないのではないかと懸念される。そこで、研究者個人ではなく、地域の郷土史家や民俗学者、教員、ブラク会の区長や老人会長、婦人会長、さらに図書館司書の方々に呼びかけて、伝承者(話者)を探し、文字データ化する運動を始めている。

「ことわざ学」構築の気運が盛り上がり、従来の「ことわざ学会」から、2009年10月、拙者も参加して「日本ことわざ文化学会」を設立した。現在同学会の副会長となった。2010年10月末発行予定の『ことわざの魅力と威力ー「ことわざ学」構築のためにー』という本の出版の編集代表でもある。

なお、ことわざ社会心理学の成果・内容は、次の項目の著作等において公表している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 穴田義孝, 社会心理学とく常識、コモン・センス>, ようこそ! 政治経済学部^の知の世界に (明治大学政治経済学部), 33-47, 2010
- ② 穴田義孝, ことわざをデータとしての社会心理学, 国文学 解釈と鑑賞-特集、ことわざの魅力と知恵, 2009
- ③ 穴田義孝, “ことわざ社会心理学” の探究, 明治大学社会科学叢書, 第46巻, 第2号, 2008, 159-205
- ④ 穴田義孝, 現代日本社会における常識とは何か—ことわざ社会心理学の視点からの分析—, 日本人と持続可能な社会(新田功編), 2008, 211-267
- ⑤ 穴田義孝, “ことわざ創り” の教育的可能性—ことわざ社会心理学の視点から—, 国語教室—ことわざの世界— (国語教室編集室編), 第86号, 大修館書店, 2007

[学会発表] (計1件)

- ① 穴田義孝, 郷土のことわざ調査と資料蒐集運動, ことわざ学会, 2008

[図書] (計4件)

- ① 穴田義孝, 他, 文化書房博文社, 常識力を問いなお24の視点, 2010, 211
- ② 穴田義孝, 文化書房博文社, ことわざDE社会心理学の探究, 2009, 336
- ③ 穴田義孝, 文化書房博文社, ことわざDE社会心理学の探究, 2008, 264
- ④ 穴田義孝, 文化書房博文社, 知的大人となるためのことわざ社会心理学, 2006, 399

6. 研究組織

(1) 研究代表者

穴田 義孝 (ANADA YOSHIYUKI)
明治大学・政治経済学部・教授
研究者番号: 00101387

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし